

調査報告書

- 1 とき：2012年6月17日
- 2 行先：市民ギャラリー矢田
- 3 参加者：さはしあこ
- 4 主な内容
 - ・平成24年度行政評価外部評価対象事業のため、施設及び利用状況について調査
 - ・当初の開設に至る経緯⇒ギャラリー栄の飽和状態にともなう第二の展示場として開設。栄はオーソドックスで正統路線を打ち出しており、一方、矢田は従来のギャラリーでは、なかなか難しいとされる壁の釘打ちなど、出来る限り利用者の要望に答え柔軟に対応している。また、資金面でも学生などの発表の場として利用しやすい施設として定着してきている。
 - ・利用率の低下についての取り組み⇒春割など施設利用料をお得にする。展示だけでなく、展示品をパフォーマンスや音楽で効果をあげるなどの新しい試みを始めている。
 - ・第一展示室の利用について⇒256 m²、天窓からの自然光などが特徴的。市民が展示するにはかなり広いスペースであり、静物のみならず現代アートなどの展示物の利用がある。さらに、利用方法については、展示品と音楽のコラボなどをはじめ、パフォーマンスを取り入れるなど、斬新な活用方法について検討中である。